



感激しっぱなしの演技

学 園 長 小 島 澄 人

寒くなりました。その寒さとはほど遠い発表会での子どもたちの演技ぶりに釘付けでした。舞台上での自分の振る舞い、出番のタイミング、友だちとのやりとり、歌う、踊る、台詞を言う、どれをとっても難しいものです。それをクラスのみならずと演じきる姿に、感動しました。「発表会」、普段の毎日の子ども同士のやりとりが、手を振り足を動かし、お話が展開されていく、ひとつひとつが毎日の積み重ねです。手、足、腰、頭、顔の表情、見事に表現していく子どもたちでした。各クラスごとの発表でしたが、我が子が演じる姿に感動したことでしょう。

今年ももうすぐ終わりです。いろいろな方にお世話になったり、思いがけない方に出会ったり、そんなたくさんの「ありがたさ」を胸に、新しい年を迎える期待も膨らんでいきます。

その一年の終わりに、悩みに悩んで1つの自分の思いを述べさせてください。

働き方改革、世の中でそれが叫ばれてから、教職員も意識し始めています。行事の見直し、良き物は継承し、改革すべきことは改革し、見直さなければなりません。その1つに、発表会でのかぶり物があります。クラス的人数が10数人から35人、一人ひとりのサイズからボール紙、新聞紙、障子紙、のり付けし、乾かし、色を塗り、ニスを塗り、乾燥させておく。一人ひとり作っていく、しかもいろんな役に合わせて作る、大変な労力です。普段の毎日の保育、会議、準備、それでいっぱいいっぱい、その後各自が残ってやっている状況です。2週間から3週間続きます。先生によっては日をまたぐことも。先生たちは子どもの為に必死です。子どもたちは喜ぶ、我が子がかぶったその姿をみる保護者の姿がまた思い浮かびます。けど、子どもたちのかぶり物、衣装に目が行きがちですが、本来は子どもたちの生き生きとした演技力、表現力、その笑顔を見ることが大切です。お面でもいいのでは。お面を頭に付けて演じるだけでも子どもは可愛いものです。

勿論、先生たちは従来のかぶり物で大丈夫、遅くなっても大丈夫、子どもの為なら、と思っています。けど皆さんの理解の中で、少し変えてみたいと思っています。来年度より変えたいと思っています。よろしく願いいたします。

新しい年、皆さんに素晴らしい年となりますように。

